公益信託世田谷まちづくりファンド

第２２回助成事業 審査講評　＆　ファンドの一年を振り返って

【運営委員長 土肥真人】

公益信託世田谷まちづくりファンドに注目されている皆さん、こんにちは。
運営委員長を務めております土肥です。この審査講評を書くのも 5 回目になり、恐らく最後の報告と講評となります。公開審査会＆活動報告会の風景、それとファンドの一年を思い返しながらこの文章を書くのが、毎年の楽しみでした。またよく考えてみると、ファンドの助成グループの方々、関係者の皆様に、文章という形で運営委員会の動向や考え方などを直接お伝えできるのも、この場しかなかったのです。

この文章では、まずこの一年間のファンドや運営委員会の動きなどを皆様にお伝えしたいと思います。その後に第 22 回助成事業の講評を記しますので、そちらを読みたい方は、２．から先にお読みください。

１．まちづくりファンド 2013－2014

まず 2013－2014 年のトピックを二つ挙げます。

（１）助成グループ間の交流

ひとつは助成グループ間の交流の深化です。世田谷まちづくりファンドの特徴のひとつに「学びあい育ちあう場」というのがあります。この４年間、活動報告会と公開審査会を同時に開催し、公開審査会ではポスターセッション、活動報告会では「つながり」報告スタイルを採用するなど、できるだけ助成グループがお互いに知り合えるように、場の設定をしてきました。これに加えて 2013 年はトラストまちづくり主催の交流会（6 月と 10 月）の WS プログラムを東工大の私の研究室が担い、助成グループの方々のつながりが目に見えるようになりました。ひとつひとつの活動グループがそれぞれの地域でつながり、地域がつながって世田谷という大きな地域になる、というこれまでにない「市民まちづくり」の可能性が示されたと思います（詳しくは東工大土肥研 HP まで)。災害対策・復興まちづくり部門の報告会に、全員で情報を共有し課題を確認するためのワークショップも導入しました。交流会や審査会のアンケートからは、多くのグループが「つながり始めた」ことがわかります。これはこの 4 年間の大きな成果だと私は考えています。これからもますます市民がお互いに学びあい、ユニークなアイディアと優しく誠実な活動が世田谷のまちのそこここで出会い、豊かなまちを創り上げてゆくことを祈っています。

（２）「キラ星応援コミュニティ部門」の設定

もうひとつの大きなトピックは、ファンドに「キラ星応援コミュニティ部門」という新しい部門ができたことです。設定の趣旨は“世田谷でまちづくりを牽引する担い手を育て、その担い手を応援するコミュニティを作ろう”です。この部門は設立 20 年を迎えた世田谷まちづくりファンドが、これからの 20 年のまちづくりを切り拓くグループを見出し、その

グループを支える応援コミュニティを創り上げることを目標とするものです。これまでの部門と異なるのは、お金だけの助成でなく、さまざまな知恵やネットワークを助成する点です。助成グループには「メンター」という伴走者が配されて、要所要所で相談に乗るというスタイルです。社会的企業家の育成、社会的事業の成長に実績のある方式です。

世田谷まちづくりファンド運営委員会は、2014 年 4 月から 7 月まで二子玉川カタリストBA で月 1 回の「ギャザリング」を実施しました。ギャザリングでは日本の各地で繰り広げられているコミュニティ・ファンドの先駆者を招いて、ファンドの新部門のあり方などを勉強し検討しました。参加者は 4 回で 200 名を越え、多くの人々と世田谷のまちづくりの未来を一緒に検討する機会となりました。ギャザリングはまた、企画・広報・財政などを、ボランティアの集まりである世田谷まちづくり運営委員会が実施できることの確認にもなりました（これは後述する市民による事務局機能につながる重要な点です）。

7 月 18 日開催の第 4 回ギャザリングは、「キラ星応援コミュニティ」部門の募集開始の日でもあり、盛大にこの新しい部門の船出を皆で祝いました。運営委員の水谷さん、前運営委員の市川さんがもう信じられないほどの労力を注いで下さり、この部門を立ち上げてくれました。また公益信託を狭義に解釈すると「応援コミュニティ」は公益信託にはそぐわない、ということになるのですが、受託者（三井住友信託銀行さん）には、世田谷のまちづくりの発展という観点からこの部門の設立を了解していただきました。これらの方々の協力がなければ「キラ星応援コミュニティ部門」は設立できませんでした。大変感謝しております。

この部門には、5 年間で総額 2400 万円の助成を行う予定です（今年度 300 万円、2，3，4 年目 600 万円、5 年目 300 万円）。これは現在のファンド助成額＋事務費などのほぼ 2 年分に相当します。現在のファンドの資産は約 1 億円ですから、現在のまま区からの出損金がなく（2012 年以降）市民・企業からの寄付もほとんど無ければ、この部門を設定したことでファンドの継続期間は 8 年から 6 年に短くなることになるかもしれません。運営委員会としては、ファンドが 2 年短くなること以上の成果が、この部門から生み出されることを確信しています。また現ファンドがなくなった後の新たな市民ファンドの設立も、この部門の応援コミュニティを中心に議論できるのではないかと考えています。

一方で期せずして生じた新しい事態があります。それはこの部門に「トラストまちづくり」が関与していないということです。ファンド設立以来 21 年間、世田谷まちづくりファンドの事務局的機能はトラストまちづくりが担っていました。しかしこの部門は「世田谷社」が事務局となります。（トラまちは多忙でこの部門には手を回せない、ということでした。）実は事務局的機能を市民サイドでどのように担うのか、ファンド設立期からの課題であり、またこの 4 年間もトラストまちづくりとファンド運営委員会の間には少なくない軋轢がありました（震災復興特別部門の設立・継続に関する運営委員会の決定事項への介入など。これについては運営委員会名でトラストまちづくり理事長宛に公開抗議文（2013 年 3 月 31 日付け）が提出されています。）。今回トラストまちづくりという行政機関からの自

立が結果的に起こったことはきっといいことなのだと、思います。市民が行政から適当な距離を持ちながら、自立的にファンドを運営できるのか、その意味でも「キラ星応援コミュニティ」部門は重要な部門となります。

（3）ファンド財産の減少とファンドの未来

昨年も記しましたが、20 年近く継続した区からファンドへの出損金（400～500 万程／年）が 2012 年から止まっています。また市民や企業からの寄付もほぼない状態です。運営委員会としては、いつか消滅する公益信託世田谷まちづくりファンドの未来、さらに世田谷のまちづくりの未来をどう考えるのかが、大きな課題です。現在のファンドが世田谷のまちづくりに果たしている役割の大きさを考えるとき、どうしても次世代のファンドのあり方を模索しなくてはなりません。日本の各地で広がっているコミュニティ・ファンド型の市民ファンド（大きな資産を持たずに、年毎に集めた寄付や出資（志金）を、その年の助成にあてる。資金だけでなく、知恵やネットワークを支援する。）を、世田谷でもできないかと言うのが、一つの方向性です。新部門「キラ星応援コミュニティ」部門は、このような発想から生まれました。

ファンドの未来に関して、現在の運営委員会と委託者であるトラストまちづくりは、異なるビジョンを持っています。（これらは議事録からはなかなかわからないので、簡単に記しておきます。）「キラ星応援コミュニティ部門」設定に関しても、財政的な面で多くの議論がなされました。新部門の設定と引き換えでの既存部門「災害対策・復興まちづくり部門」の廃止、「まちづくり活動部門」の縮小（助成額の減額、例えば 500 万円から 200 万円）などが、トラストまちづくりから運営委員会へは何度も提案されています。これをうけた運営委員会は、各部門の必要性はそれぞれ別個に検討するという結論に至っています。トラストまちづくりの主張は細く長くファンドを続けると言うもの（最長 12 年前後）、運営委員会は現在の助成はどれも必要であるからこれを維持し、かつ 2 年分の予算を削ってでも新しいファンドへの移行を準備したいというものです（最短 6 年程度）。運営委員会とトラストまちづくりでは立場も関わり方も違うので、どちらが正しいという議論ではありません。問題はこの議論に区民の皆様が参加できないことです。しかしファンドのあり方の議論に多くの区民の方々に参加してもらうことは、現在のファンドの仕組みではなかなか実現できそうもありません。この機会に、ぜひ皆様にもこの意思決定を知っていただき、あるいはご意見をいただきたいと考えています。また来年度は、私も含め 5 名の運営委員が退任します。今年の年末頃から新しい運営委員の募集が始まります。ぜひふるってご応募いただき、世田谷まちづくりファンドの未来、世田谷のまちづくりの未来を、担っていただきたいと願っています。

最後に、まだ「キラ星応援コミュニティ」部門の審査など、運営委員としての任務は残っていますが、運営委員長を 4 年と少しの間務めました。いろいろなことがあり、いろい

ろな方と出会え、本当に楽しく充実した日々でした。公開審査会もその責任の重さにドキドキしたり、一年ぶりに出会う人々の元気な顔に喜んだり、楽しかった。何よりも多くを学んだのは、助成グループの皆様が活躍している現場＝まちの訪問からです。深く広く、豊かで彩りある、楽しく美しく、静かで賑やかな、世田谷のそこここで実践されているまちづくり活動は、短時間の審査会では到底わからない、まちと人の優しさから生まれているものでした。私が世田谷のまちづくりからもらった分の少しでもお返しできていたら、と願うばかりです。本当にありがとうございました。もちろんこれからも区民として世田谷のまちづくりに関わって行きたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

２．第 22 回公開審査会と第 21 回グループの活動報告会、審査グループへの講評

（１）公開審査会

第 22 回目の世田谷まちづくりファンド公開審査会、5／25（日）と 6／1（日）の 2 週間にわたり 4 部門 43 グループの公開審査が行われました。5／25（日）は災害対策・復興まちづくり部門、6／1（日）ははじめの一歩部門、まちづくり活動部門、10 代まちづくり部門、まちを元気にする拠点づくり部門の報告会も合わせて行われました。両日共に大盛況でしたが、特に 6／1 の審査会＆報告会には、全体で 200 名程の参加がありました。これは私が運営委員長になってからでは最高の数字で（ファンド史上最大との声もあり！）、体感的にも例年にも増して熱い雰囲気を感じました。特に 10 代まちづくり部門の皆さんの発表・報告には緊張と使命感が溢れていて、会場は発表を見守る大人たちの眼差しも交差して、生命力と包容力に満ちていたと思います。大変に嬉しい時間でした。

今年は「はじめの一歩部門」に 5 件（昨年 11、以下同じ）、「まちづくり活動部門」に 31 件（28）、「災害対策・復興まちづくり部門」に 5 件（8）、そして昨年度から創設されていた「10 代まちづくり部門」に 2 件（1）、の計 43 グループが応募されました。「まちを元気にする拠点づくり部門」は、予算総額 5000 万円を使いきったので、今年度から廃止されています。審査結果はそれぞれ部門ごとに 5 件、29 件、4 件、2 件、となり今年度は 40 グループの皆さんが、ファンドの助成を受けて世田谷のまちや東日本大震災の被災地のまちで活躍することとなりました。素晴らしい活動を期待しています。

（２）活動報告会

・「災害対策・復興まちづくり部門」活動報告会（5 月 25 日）

5 月 25 日に三軒茶屋しゃれなーどホールで、第 21 回（2013 年度）「災害対策・復興まちづくり部門」の助成グループによる活動報告会が開催されました。参加者は 60 名ほどでした。〔芦花公園しあわせ野音の会〕〔福島のこどもたちとともに・世田谷の会〕〔遊びとまち研究会〕〔こちカフェ隊〕から、パワーポイントによる活動報告、世田谷のまちづくりへの提案がありました。（これらの成果は、トラストまちづくりの HP で見ることができます。）

震災後 3 年がたち、まちごとに、地区ごとに、家庭ごとに、向き合う課題は多様化しています。皆さんの報告からは、きめ細かい支援がますます必要になってきていることが伝わってきました。報告会の後半は昨年に引き続き運営委員の福永さんの司会により、参加者全員で世田谷と被災地のまちのつながりを確かめるワークショップを行いました。東北 3 件の大地図と世田谷区の大地図を床に置き、支援元と支援先のまちを青いビニールひもでつなぎます。2 年分、8 本のひもが引かれます。このひもに本部門のグループが「学んだこと」を短冊にして置きます。世田谷のまちづくりが区の境界を出て、被災地の町々と強く結びついたこと、世田谷から持っていったものと東北から持って帰ってきたものが、一目で確認できました。この部門ができるときの議論に、「世田谷のまちづくりのユニバーサル化」という視点が挙げられていました。それぞれのまちで手探りで進められてきた世田谷のまちづくりは、他の町でも役に立つ何かを有しているのか、初めて自問したということです。被災地のまちづくりと繋がろうとしたことで、自分たちの活動を外側から見る必要に迫られたのです。大きく広げられた地図とそれを結ぶ青いひもとたくさん張られたカードを見ていると、20 年の間に培われた世田谷のまちづくりの豊かさが世田谷区からあふれ出しているように思われてきました。この部門は被災地のまちとの連帯を確かめることが、防災のみならず世田谷のまちづくりを大きく育てていると改めて思いました。

・「はじめの一歩部門」「まちづくり活動部門」「10 代まちづくり部門」「まちを元気にする拠点づくり部門」活動報告会（6 月 1 日）

活動報告会と公開審査会を同日開催にしてから 4 年目になります。おかげで当日のスケジュールは朝 9 時半から午後 6 時半までとキチキチになっていますが、しかしまちづくりグループ間の交流を！という目的は今年も十分に果たせたと思います。

今年は 20 グループがファンドを卒業されました。昨年は 13 グループでしたから、今年のファンド卒業生は大変多かったのです。報告の順番は、これも 4 年目になりますが、「自分たちで探すつながり順」に行っていただきました。この 1 年間に世田谷で繰り広げられた様々な活動が、「同じ地域」「自然」「音楽」「食」などのつながりを持ちながら報告されました。司会を担当した私も 4 年目になり、良く知っている活動がたくさんあって、皆さんファンドを卒業されるのだと思うと、少し寂しく感じたりもします。それにしても今年もまた世田谷区の地図にシールで示された多くのファンドグループの活動がマジックの線で結ばれてゆくのを見ると、世田谷まちづくりファンドの重要な役割のひとつは、助成グループ同士のつながりを生み出すことなのだと、改めて教えられます。審査会ではある意味グループ同士競争するわけですが、しかしその後には繋がりあって世田谷のまちを豊かにしていることを実感します。また今年は、昨年度世田谷まちづくりファンドについて修士論文を書き、皆さんに大変お世話になった土屋陽子さんに報告会の助手を努めてもらいました。報告していただいたグループの皆さん、お疲れ様でした。これからも大いにせたがやのまちを舞台に、素敵な活動を繰り広げていただきたいと思います。

また年に何回もある報告会・審査会が、この一年間、滞りなく有意義に素晴らしく運営できたのは中央三井信託銀行の稲垣様、運営をお手伝いいただいた「まちづくり広場」と「トラストまちづくり」の皆様、また報告会・審査会で発表された市民の皆様、審査会を見に来場してくれた方々、皆さまのご協力の賜物です。深く感謝したします。

（３）審査グループへの講評

■はじめの一歩部門

申請された５件すべて、助成対象グループとなりました。おめでとうございます。どうぞ皆さんのアイディアを世田谷のまちに実現してください。一年後の活動報告を楽しみにしています。活動を楽しみながら、目的が達成できるよう、願っています。

■まちづくり活動部門

・１年目

2-1　自分史プロジェクト

「自分史の背景を共有する場」を作るというアイディアには、多くの人を巻き込む可能性があると思いました。しかしその具体的な道筋や場がイメージできませんでした。ぜひ小さい実践を積み重ねていただきたいと思います。

2-2　北小わくわくビオトープ の会

地域の皆さんが小さな生き物の棲む環境を、汗を流して一緒に作るという提案ですが、計画は具体的でかつ多くの人々が既に腕まくりして準備している感じですね。質疑の際にも申し上げましたが、継続的な管理運営のため、より多くの人々を巻き込むため、寄付や会費などの仕組みも考えていただきたいと思いました。生き返るビオトープ楽しみにしています。

2-3　街の木を活かすものづくりの会

この活動は街の木々を同じ街に生きる仲間だと感じるところから生まれたんだと、私には思えます。同じ街に生きた木々は、何らかの理由で伐採された後も、大切に手をかけられて街の家々の中でもう一度生命を与えられる、そんなイメージです。素晴らしい活動だと思います。持続できるお金の回し方をぜひ考えていただきたいです。

2-4　ZUTTO－KOKO

これまでの息の長い活動の上に地域で求められている新たな課題に取り組む姿勢に感銘を

受けました。質疑の際の「安心して徘徊できる町」というフレーズが記憶に残りっています。まるで家の中にいるように町の中にいられたら、それは優しい町に違いないですよね。ケアラーズカフェの報告を楽しみにしています。

2-5　ツール・ド・デザイン

昨年のカレーパンツアーと同じカレーパンという素材を用いつつまったく新しい提案に舌を巻きます（ただ申請書だけでは良くわからなかったです。）サポステ（若者支援センター）との協働はきっとうまくいって、数えられないほどの素晴らしいことを生み出すと確信しました。

2-6 「カレーまんの家」を作る会

アイディアも面白いし、実行力のあることもよくわかっています。ただやはりカレーフェスティバルの一部企画として見えてしまいました。そしてその一部企画が独自に持つまちづくりへの新たな意義が、判断できませんでした。

2-7　もぐら公園大型遊具モグリ―プロジェクト

モグリープロジェクト、魅力的です。子どもから大人まで一緒に汗をかいて大きな遊具を作り上げるなんて、それだけで物語になりそうですよね。そんな風にできたタワー？が町にそそり立っている風景もまた、創造するだけでわくわくします。ぜひ素敵な遊具ができますように！

2-8　せたママ・マルシェ実行委員会

１day イベントとその準備の過程で「ママ」がつながるというのは、きっとそのとおりだと思います。ただそれが自然と区とのつながりへの認識になるのかは疑問で、もうひとつ仕組みが必要なのではないかと思いました。今年の活動を通して、「世田谷＝わたしたちの街」に至る道筋を模索していただき、その結果を教えて欲しいと思います。

2-9　おむつなし育児研究所 東京サロン

提案はとても重要なもので、現状認識も共有できました。一方で計画の具体性に問題があると思いました。具体的にどこの小学校の生徒が何人、どこのお年寄りが何人、どのくらい協力してくれるのか、わかりませんでした。また「プログラムの地域化」も説明を聞いても理解できなかった。ぜひ提案を具体的にされて、再挑戦をお願いしたいと思います。

2-10　０円マーケット「くるくるひろば」

くるくるの実力に脱帽です。世界のくるくるも世田谷の７割くるくるも感動しました。物をくるくるしていると、人々の間のコミュニケーションもスムーズにくるくると回りだす

ことが良くわかりました。常設の物々交換棚（くるくるボックス？）ができるといいですね。

2-11　旬のものをみんなで美味しく食べる会

地域のお医者さんやケアワーカーの方々が、病気の方々を診たり介助の必要な方々を支えたりするだけでなく、地域を見るという活動に感銘を受けています。素晴らしいまちづくり活動だと思います。同じ町に暮らす人々が、季節を感じながら、会話を楽しみながら、おいしくて身体にもよい食事を共にする、そんな風景が皆さんの活動によって実現しますことを願っています。

2-12　一般社団法人グリーフサポートせたがや

皆さんがとても大切で、しかも大変な状況にこそ必要な活動を行っていることは良くわかりました。その上で教えていただきたいことがあります。それはまちや地域と、グリーフサポートの関係です。サポーターと当事者の関係に「地域」は何らかの意味を持つのか、ということです。悲嘆にくれる人々やなかなか立ち直れない人々を癒し支えるまちづくりというのは、どのようなものなのか、皆さんの活動を通して教えていただければと思いました。

2-13　世田谷区スポーツ鬼ごっこ普及推進委員会

きっと子ども達には大人気でしょうね。すでに世田谷での実績もあるようですし、子どもたちの歓声が聞こえてくるようです。その上で、どのように地域を巻き込みながら競技会を組み上げていくかが大事だと思いました。ただ娯楽や体位向上のための競技会ではなく、まちづくりとしての競技会をぜひ目指していただきたいです。

2-14　烏山地域自転車等適正利用協議会

烏山の皆さんの活動にはいつも敬意を抱いています。しかし今回の提案は、その必要性や実現性など十分了解できるにもかかわらず、助成には躊躇しました。その理由は、やはり目的とそれに至る手段が明確でなかったからなのだと思います。継続的に行われている年一度のイベントや呼びかけの継続、という理解から先に進むことができませんでした。ぜひ継続のみでなく、「目的（小さくても）に到達する」活動を繰り広げられて、報告していただけることを期待しています。

2-15　車椅子に乗って街を探検！バリアフリーマップを作ろう

皆さんの掲げているテーマや目的、志には賛同します。ただまだ活動のイメージが固まっていないのではないかと言う印象を受けました。誰が何人でどこの街のマップを作るのか、「みんなが安全に歩ける」とは具体的にどんな状況なのか、などです。小さな活動を積み

重ねて、実績を積んで行っていただきたいと強く思っています。

2-16　かいっちゃんち紅茶クラブ

まちにこんな場所があったら、きっとやって来てホッとする人がいるんだろうなと思いました。大切な活動だと思います。ただ施設の維持管理費が申請額の多くを占めているのが気になりました。地域の人々に支えていただくと言う意味でも、持続的に場所を運営するためにも、金銭面を含めたサポーターを地域の人々に求めてはいかがでしょうか。

・２年目

3-1「品川用水」の復活研究会

かつて地域を毛細血管のように流れていた「用水」。その面影を追い、現在でも流れている水とその歴史を地域の重要な資源と捉え、人々の心に訴えかける皆さんの活動には、全面的に賛成します。今年の活動はこれまでの活動のまとめのように伺いましたが、ぜひそのまとめの作業にも地域の人々を巻き込んでいただきたいのです。その過程を経てこそ、多くの人々の心に品川用水が再生されると思うのです。

3-2　カタクリの会

生け花がどのようにまちづくりに関係するのか？その答えはカタクリの会の活動にあります。世田谷の風景資産であり宝物である「旧小坂邸」は、大切にお世話する人々がいて初めて現在のように生き生きと存在できていることを、皆さんの活動から学びました。お庭からお花を少しだけ借りて、地域の人々と一緒に季節を楽しむ、そんな活動を小坂邸は本当に歓んでいると思います。写真展楽しみにしています。

3-3　椎の木のしいのみたち

「椎の木」と「しいのみ」。なんで漢字とひらがななんだろう。でもすぐに大きな一本の地域にずっと在る老大木と毎年ぱらぱらとじめんにおちるたくさんのみ、そこからめをふく多くの若木がイメージできます。大学生と高齢者が共に過ごし、お互いに与え合う「生きる力」は、地域を生かす力でもあることを、皆さんの活動から教えられています。

3-4　あかねこうぼう

まちの中に高齢者と子どもたちが一緒にものをつくる場所があると、みんなの顔が笑顔になるのですね。また先生になり生徒になる学びあう姿にも、まちが本来あった姿を取り戻す大きな可能性を感じます。運営も安定してきたとのこと、今年も素晴らしい作品がたくさん生まれ、たくさんの満面の笑みが広がりますように。報告会を楽しみにしています。

3-5　劇団ほぼ無職

自分達で場所を創り上げる力に心を掴まれます。数多くの団員と演劇のお客さんとでゼロから創る「普通じゃない」空間に、僕は社会を切り拓く力強くて豊かな未来を見ます。その上で地域と皆様の活動を意識して結び付けられないかと勝手に期待しています。「地域型劇団」の力を実践して見せて欲しいのです。そして安心して活動するためにもあと 47 万円の貯金ができるといいですね。

3-6　明大前駅周辺街づくり協議会

質問もしましたが、交通問題に特化しすぎなのではないか、なぜ今年度に区が策定する予定の「地区街づくり計画」に今年の活動が向かないのか、私には得心が行きませんでした。また昨年度に実現できたこととできなかったこと（マップ）の上に、今年の目的が設定されているかも疑問が残りました。しかし皆さんの活動がとても重要なことは自明です。ぜひ私の恐らくは見当違いの疑問に報告会などで答えていただければと思います。

3-7　特定非営利活動法人日本防災士会世田谷支部

防災士という専門的技能をまちに語りかけるように伝える活動が着実に進んでいることは、素晴らしいです。「これまでとは違い、防災を具体的に考えるようになった」という商店会の方の言葉に、皆さんの活動の大きな成果を感じました。今年は計画を実現するための一歩の年になると理解しています。具体的な成果を期待しています。

3-8　世田谷代田ものこと祭り実行委員会

駅前から代田八幡神社までお祭りの舞台が忽然と姿を現しました。その背後には多くの人々の協力とその協力を引き出したみなさんの力があることが良くわかります。「ありがとうでつながる」ことを 10 年かけて実現するというビジョンも素晴らしいと思います。小さな渦が大きくなり、そしていろいろなところでさらに小さな渦を生み出す、もうそんな流れが代田のまちで始まっていると実感しました。

・３年目

4-1　子どもでつながるハートくらぶ

障がいをもつ子どもさんたちやその親と共に考え支えることは、まちや地域が本来持っていた力だと皆さんの活動を見ていて思います。現在は失われてしまったかに見えるこのまちの力を回復し、さらに多くのまちの団体と結び合おうとする考えと行動に敬意を表します。しかもそんな大変そうなことをフットワーク軽くやるんですから、皆さんの活動するまちは優しく軽やかになりますよね。

4-2　フレンドリークラブ

「花と健康増進」が新しい街づくりのキーワードというのは、私にはいつも新鮮に響きます。皆で作る健康的な食卓に丹精こめた一輪の花があれば、それは華やいで健やかですよね。花壇の花々は、道行く人々を慰め、食卓を飾り、人々の心に彩を添えて、街に溶け込んでゆく、そんなイメージです。来年度以降の活動継続（特に財政面）に向けた取り組みも期待しています。

4-3　世田谷・Ｌｉｅｎ

設立からわずか 2 年で、幅広くまた持続可能な活動（特に財政面）を繰り広げられていることに驚きました。子育てと介護、要介護者と介護家族、高齢者施設と児童虐待、どれも大変でだからこそ当事者達は孤立しかねないのだと思います。「つるし飾り」という「得意技」をもって、様々な地域でそれらの人々を支えている皆さんを応援したいです。様々な活動、世田谷での展示会の成功を祈念しています。

4-4　よみきかせボランティア藤の会

74 回の出張読み聞かせはすごいです。一月 6 回以上ですものね。高齢者の皆さんも楽しみにしているのでしょう。絵本の持つ力が心に感動を生み出すのは、きっと子どもも大人も同じなのかもしれません。あるいは高齢者の方は心の中に懐かしい風景が浮かび上がるのかもしれません。時空を超えて心の中に、そして町の中に安心できる場所ができることを想像できます。今後会員の方も増えそうですし、素晴らしい活動を展開されますよう期待しています。

4-5　世田谷区民のライフスタイルを考える会

私には皆さんの申請書やプレゼンテーションから、活動の新たな展開が見えませんでした。また持続可能な運営への展望を検討されているようにも思えませんでした。3 年目となりますので、具体的な活動成果はもとより活動を継続し大きな目標に到達するための基礎を固めていただきたいと思いました。

4-6　トランジション世田谷茶沢会

「自然のいとなみ」「生き物のいとなみ」「人々のいとなみ」の重なり合いがまちを作り、暮らしを作るという皆さんのコンセプトに賛同します。どの「いとなみ」もきちんと営まれるようにならないと他の「いとなみ」もおかしくなりますよね。その調整を「なりわい」とするという展望には脱帽です。強くて豊かな地域経済をぜひ実現してください。

4-7　世田谷環境学習会

４つの部会で多彩な活動を、世田谷中で繰り広げられている印象です。三年目になる今年は素晴らしい活動そのものに加えて、ぜひ活動を持続できるような財政的な仕組みを検討

していただきたいと思います。多彩な活動をどのように組み合わせるのか、組み合わせることができるのか、そこら辺が鍵のようにも思えるのですが‥　いかがでしょうか。

■10 代まちづくり部門

【部門全体講評】

「まちづくりには、多くの世代が関わるべきで、しかもべき論ではだれも関わってくれない、だから楽しく呼びかける方法を模索してきました。運営委員の首藤さんの尽力で、まちづくりに本当に楽しく頼もしい仲間ができたこと、とてもうれしく思っています。10 代の若者の本当に素晴らしいプレゼンで、会場全体が盛り上がり幸せになりました。来年以降もこの部門から、新しくフレッシュな仲間が増えることを願っています。」（2013 年度講評より）そして今年は小学生グループと高校生グループが仲間になってくれました。まちづくりの未来を感じます。どうぞ、力いっぱい頑張ってくださいね。報告会、楽しみにしています。

5-1　Activity For Students

オルパってすばらしい場所だったんですね！僕にはどんなところか想像つかないけど、それでも皆さんが大切にしていた場所だということがよくよく伝わってきました。素敵な記録を作って、素敵な仲間に報告して、いつかオルパ以上の場所をみなで作ってください。

5-2　北沢小学校合唱団

皆さんのハーモニーには大きな力があると思いました。人を幸せにする力です。発表（プレゼンテーション）も質疑応答も、自分たちのそんな力を人々に届けたい思いが伝わってきて、大変すばらしかった。おそろいの新しいネクタイでいろいろな場所で歌ってくださいね。

■　災害対策・復興まちづくり部門

「この部門はその存在自体を公益信託世田谷まちづくりファンドの契約上の委託者である「トラストまちづくり」から問われている部門です。世田谷まちづくりファンドがなぜ東北の町の復興にお金を出さなければならないのか。しかし、お金だけでなく世田谷のまちづくりが培ってきた力のすべてをもって仲間のまちの遭遇した悲しみに向き合い、手を携えて復興に向かうことは、どうしても必要なことだと私は考えています。（中略）今年助成をうけることになられた 4 グループの皆様にも、仲間のまちを助け、支えた経験を自分のまち世田谷へ伝えていただきたいと思っています。」（2013 年度講評より）　今年もまったく同様の状況と考えです。本部門のグループの方々の 2 年間の報告と提言を受けて、これ

からも 5 年、10 年と続けるべき部門だと確信しています。

6-1　岡さんのいえＴＯＭＯ

昨年は一緒に活動していた「こちカフェ隊」が申請グループから抜けているのが気になっていたのですが、できるところがやる！ということだと理解しました。そう意味では活動の継続にとても必要なことなのだとも思いました。岡さんのいえで写真展を開催するとのことですが、新東名でも世田谷のまちづくり活動の写真展、企画してはいかがでしょうか？

6-2　"福島の子どもたちとともに・世田谷の会"

継続することに大きな意味がある活動だと思いました。一方で年月の経過と共に、少しずつ必要なことや周囲の環境も変わっていく中で、新たな取り組みも必要になるのでしょう。今年は空家プロジェクトを通して家を借りて拠点にできるとのこと。大変な活動の中で新しい人々と出会い活動を展開している皆様は、世田谷のまちづくりの先駆的な存在だと改めて思いました。

6-3　ＣＲＡＦＴＭＡＮ 世田谷

キッズハウス製作、楽しそうでした。製作過程で世田谷や大船渡からの参加者が育ってゆくこと、維持管理などをバトンタッチできるだけの現地の方々との関係の構築など、よく伝わってきました。今年は世田谷での活動の充実を期待しています。

6-4　"下北沢＋被災地命つなごうプロジェクト"

被災地と世田谷をつなぐ活動を続けておられることに敬意を表します。福島と世田谷を「ふるさと」でつなごうという企画は、大変面白く可能性のあるものだと思いました。ただプレゼンテーションではその素晴らしさが伝わりにくかったのかもしれません。ぜひ活動を継続していただき、この企画も少しずつでも実現していただきたいと思います。

6-5　遊びとまち研究会

全体として太子堂の遊び場マップ作成の技術がどのように被災地のまちづくり活動とつながっているのか、よく伝わってきませんでした。太子堂地区と六郷七郷の学校を通したつながりは良くわかったのですが、それを世田谷全体にどのようにフィードバックするのか、その回路を示していただければと思います。